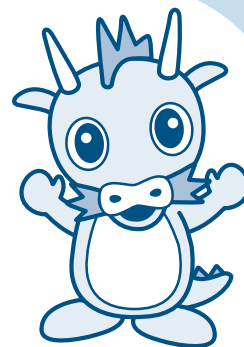
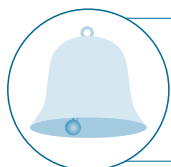


鐘の音

～かねのね～



vol.45
2021.3 発行



その昔、大宮の地で見出されたという鐘の精「鐘姫」の伝説にちなみ、誰もが自分らしく生きられる社会を目指して、様々な心の声を響かせたい、という願いを込めて名づけました。

令和3年度講座のご案内

◆主催講座

※令和3年1月時点の予定です。

さいたま市議会2月定例会において、令和3年度予算の承認を得てから詳細を決定いたします。

講座の詳細は決定次第、市報・チラシ・HP等で周知いたします。また、新型コロナウイルスの影響により変更となる可能性がございます。最新情報は、パートナーシップさいたまHPをご確認いただけますようお願い申し上げます。

4月			傷ついた心のケア講座	
5月	生き方を選ぶ/踏み出す講座			
6月	男女週間記念事業、オンライン活用講座		女性カレッジ	
7月	性暴力防止セミナー			
8月				
9月	防災女子講座	幼児を持つ母親のための講座		※出前講座
10月	多様な性を知る講座、地球女子講座			
11月	DV防止セミナー、世界の女性とつながる講座、国際男性デー講座			
12月	私の身体は私のもの講座			
1月	メディアリテラシー講座			
2月	ライフキャリア講座			
3月				

※出前講座 専門の講師を派遣します

ワーク・ライフ・バランス出前講座	さいたま市内の学校・事業所等へ、テーマごとに専門の講師をコーディネートします(講師料はさいたま市が負担)。オンラインでの講座にも対応いたします。お気軽にパートナーシップさいたまへお問い合わせください。
デートDV防止出前講座	
性の多様性出前講座	
なんでもジェンダー平等出前講座	



(パートナーシップさいたまHP)

DV防止セミナー

冬の日でも風のない穏やかな午後には、公園のベンチでホッとひと息いれるのが好きです。お昼休み中のほかの人たちと一緒に陽だまりの中にいると、何やらホッとした幸せな気持ちになります。安心や幸せという感覚は、人との関わりや共感を通じて得られることが多いように感じます。時に煩わしいこともある「人との関わり」ですが、それをほかの誰かに遮られ続けたとしたら、どうでしょう。安心や幸せはおろか、自分に価値を感じられなくなってしまうかも知れません。

今回のセミナー講師である山寺さんの著書『誰もボクを見ていない』で取材された少年は、人との関わりを閉ざされた環境で育てられたともいえます。経済的に苦しい家庭環境のなかで、少年は虐待やネグレクトを受けて育ちました。母親からは家庭の貧困の理由を「お前のせい」と理不尽に押し付けられ続け、ついにお金のために祖父母を刺殺してしまいました。

講座はこの川口市で起きた事件の取材をもとに構成され、前半で起きたことのアラましをなぞり、後半は少年の手記をもとに考えを深める時間でした。なぜ事件は起きてしまったのか、これから少年や母親はどう生きていくのか、そして行政はどんな対応ができるのか、明確なこたえは出ないものなかも知れませんが。

一方で、自ら動き出している人たちもいます。少年の言葉を曲にする人、支援を申し出る人たちや、その受け皿の会を立ち上げる人、将来世代のためにと子

も食堂を始める人、そして「母親」の孤立も放置してはいけない、と改めて活動に取り組む人。今までの時間をとり戻すかのように、人の関わりが少年を通して広がっています。

今回の講座から、私たちは人との関わりかたについて改めて問われている、そんな感覚を持ちました。コロナ禍やそれ以前からの高齢化、社会の余裕のなさなどで、いま人が孤立しやすくなっていると感じる方も多いのではないかと思います。同じような境遇にいる子どもたちも、為に「一歩踏み込んで欲しい」、少年は山寺さんにこう手記で伝えていています。私は自分の「一歩」とはいつか何ができるのだろうか、と考えてしまいます。皆さんだったらどんな一歩を踏みこめるでしょうか？

(むらかみたくじ)



参考図書
山寺 香 著
『誰もボクを見ていない』なぜ17歳の少年は、祖父母を殺害したのか？
ポプラ文庫、
2020年4月

私の身体は私のもの講座

この講座では労働経済ジャーナリストの小林美希さんが、「産む・育む」にまつわる社会の課題を資料をもとに共有していきます。そして「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」*について、考えを深めることをいざなうという構成になっています。

動画資料の見出しをもとにかいつまんで内容を追っていきま。少子化が止まらないから始まり、「かつての『寿退社』が妊娠解雇」に変わっただけ、「第一子出産を機に6〜7割が無職」、「まるで、子どもを産み、育てながら女性が働くことが悪いことのような社会」、「その先に待つ『孤育て』女性だけに押し付けられる育児・家事との両立」と続きます。

さらに「保育の質は今：不適切保育が蔓延」、「安心して預けられる現状か？ 対象の認可保育所数は変わらないが事故急増」、「全ての保育園で、子どもの最善の利益が考えられ、子どもが個人として尊重されているか？」と続き、私が当事者ならばいま「産む・育む」選択を積極的に選ぶだろうか？ と考えてしまいました。私たちの社会はいつの間にかこうなってしまったのだろうか。いえ、「産む・育む」ことを女性にいわば押し付けてきた結果が、社会の「歪み」として顕在化しただけなのかも知れませんが。

講師の小林さんは今回の講座をこのように締めくくりました。「子どもが社会の財産という当たり前のことが理解されない難しい時代、妊娠したら『すみません』ではなく、職場や近所で『おめでと〜』と言われる社会を保育者と保護者、地域が共に作り上げ子どもが守られる子育て環境を」。

(むらかみたくじ)

*リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
万人が保障されるべき性と生殖に関する健康と権利。国連の国際人口開発会議（1994年）で採択されたカイロ行動計画に大きく取り入れられた。身体的、精神的、社会的に良好な状態で安全で満足な性生活を営めること、子どもを産むかどうか、産むならばいつ、何人産むかを決定する自由を持つ（ことを含む）。（井上輝子他編『岩波 女性学事典』岩波書店、2002年）

DV防止セミナー

この事件が起き報道を聞いて、なぜだかわかりませんが、伝えられたのと違う感情がありました。時間がたち裁判が始まると今までわからなかったことがわかりだしもやもやはずつきりしたのを覚えています。

子どもの事件の時にいつも感じるのは「母親」に対しての敵しすぎる判断がある、「母親」は聖母のように子どもには優しく守ってあげるべきと周囲が見ていることに母親たちは疲れ悩んでいる人もいます。

山寺さんは新聞記者の立場で丹念に取材をしてこの本を書かれています。山寺さんのお話では「居所不明児童」※の言葉を知ることができ、問題のある家庭に育つ子どものSOSがこんなにも気づかれない、本人も望まないことがあるのかと考えさせられました。何度もチャンスはあったのに…。

この事件では母親が自分の満足のために夫に働かせ子どもを巻き込んで最後には息子に祖父の殺害を促します。きっと彼は殺したくはなかったと思います。それは背中を刺しているところ、もし恨みやただのお金欲しさならばどこからでも殺せたはず、彼の心の葛藤があったと感じました。フリースクールの方達がもう少しかわかっていても母親がきつと邪魔したのではないのでしょうか。行政側にも深く入り込めないいろんな事情があるだろうが、踏み込まなくては子どもの命は守れません。山寺さんも話されていますが、このような事件は特別なことではなく、私たちの住んでいるすぐ近くで起きてもおかしくない問題として関心を持つべきと感じています。彼の手に「一歩を踏み込んで何かをする」とはとても勇気が必要…」の話はすべてを語っていると思います。

社会が母親だけに子どもの責任を押し付けているのではなく家族・地域と行政・社会が子どもを見守っていたら私たちが「一歩を踏み込む勇氣」の力になれるように思います。

※住んでいた地域や家庭、通っていた学校から姿を消し、その後の所在が確認できない子どものことを言う。さらに医療や福祉、各種の行政サービスに結びつかない恐れがある。

『ルポ 居所不明児童…消えた子どもたち』（ちくま新書、2015年）石川結貴著
(武田 礼子)

世界の女性とつながる講座

「半径1mに閉じ込められた感がある今、それでも世界とつながる方法を知り、知恵を蓄えてみませんか？」というサブタイトルが印象的なこちらの講座は、日本や世界で今起きている女性に関する問題を、講師である梁永山聡子さんが2回に分けて、梁永山さんの意見も交えながら深く分かりやすく説明されています。

1回目の講座では、新型コロナウイルスが流行する中、女性たちが置かれている状況と「#MeToo」※1運動の誕生に関して、2回目では韓国における「#MeToo」運動の社会的な影響や、「#WithYou」※2という考え方を中心にお話されています。

※1 #MeToo (ミートゥー) は、「私も」を意味する英語にハッシュタグ(#)を付したSNS用語。セクシャルハラスメントや性的暴行の被害体験を告白・共有する際にソーシャル・ネットワーキング・サービスで使われる。(Wikipediaより引用 <https://ja.wikipedia.org/wiki/MeToo> 2020/12/4時点)

※2 #WithYou 「〈#MeToo〉は私もされました、私も被害者です。」に関連する。「#WithYou」は「私はあなたの告発に共感します。私ははされてないけどあなたの告発を支持します。一緒に戦いましょう。私は被害者ではないけれど。」の意。(世界の女性とつながる講座 第2回目より)

中でも、1回目の講座の中でおっしゃっていた「STAY HOME」という言葉がもたらす影響にとても衝撃を受けました。コロナ禍の今、当たり前のように見聞きするようになった「STAY HOME」という言葉。これは新型コロナウイルスが大流行した当初、世界中で感染リスクを防ぐ為に提唱されましたが、健康面での安全性はある程度確保されても、親や配偶者から性被害やDV被害を受けている方の立場ならいかがでしょうか…。

特に2020年の春頃は、連日ニュースでも「STAY HOME」を呼び掛けていましたが、受

け取る側の家庭環境によっては身の危険にも繋がる言葉となってしまいました。「STAY HOME」と聞いたとき、同時に家庭内における性被害やDV被害を受けている方のことを考えられた方はどれほどいらしたのでしょうか。恥ずかしながら、私は考えることができませんでした。男女問わず、誰もがそうした問題を抱えている方々のことを気に留め思い遣れる社会になればどんなに平和かを凄く考えさせられました。

また日本では世界の中でも家庭内暴力が多い国と言われていることを知り、そのことにも驚き、ショックを受けました。新型コロナウイルスによって、女性をはじめとした社会的に立場の弱い方々への配慮が未だ充分ではないことが露わになりました。感染者数やワクチン開発の情報だけではなく、そうした方々がいることを皆がもっと認識し支援していけるような取り組みや情報を国をあげてなされるのが一番だと思いますが、なかなかそうもいかないようです。そこでふと思いついたのが、自分たちができる身近な人たちへの心配りということ。人と会うこと話すことは難しくなりましたが、気に掛けることはできるはず。例えば家族や友人、そして近所の方や日頃買い物に行くスーパーの店員さんといった、身内以外の身近な方にも、個人レベルで行動範囲は狭まっても視野を広くして労り合える社会が当たり前になることで、助けを求めたくても誰にも相談できず孤独な気持ちになっている方々の心を支えることができるのではないかと…。

コロナ禍により家で過ごすことが増えた今、どうしたら一人ひとりが安心して「STAY HOME」できるのかについて、本講座を通して真剣に考える良い機会を得ることができました。(酒井彩月)

相談のご案内

●相談は無料です。●秘密は厳守します。

●女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

子ども家庭総合センター 男女共同参画相談室	☎048-711-6650
月～金/10:00～20:00 土・日・祝/10:00～16:00	
浦和区役所 女性の相談室	☎048-829-6129
月・火・水・金/10:00～17:00	
中央区役所 女性の相談室	☎048-840-6132
火・金/10:00～17:00	
岩槻区役所 女性の相談室	☎048-790-0158
月・水/10:00～17:00	

●男性の悩み電話相談

男性の生き方、仕事、家庭、夫婦、人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室	☎048-711-6101
第2・第4火曜日/18:30～20:30(祝日・休日は除く)	

●女性のDV電話相談

☎048-762-3880 月～金/10:00～17:00

●女性のための法律相談(予約制)

女性の弁護士が相談に応じます。

実施場所	パートナーシップさいたま 予約電話☎048-642-8107
実施日時	第2水曜日/13:00～15:30(30分単位)
実施場所	男女共同参画相談室 予約電話☎048-711-5739
実施日時	第1・第3火曜日/13:00～15:30(30分単位)

●男性のための法律相談(予約制)

弁護士が相談に応じます。

実施場所	パートナーシップさいたま 予約電話☎048-642-8107
実施日時	第4水曜日/13:00～15:30(30分単位)

●女性のための心の健康相談(予約制)

専門の女性の医師が相談に応じます。

実施場所	男女共同参画相談室 予約電話☎048-711-5739
実施日時	第4月曜日/13:30～16:15(45分単位) ※令和3年4月から第4火曜日/13:30～16:15(45分単位)

ほっとたいむ

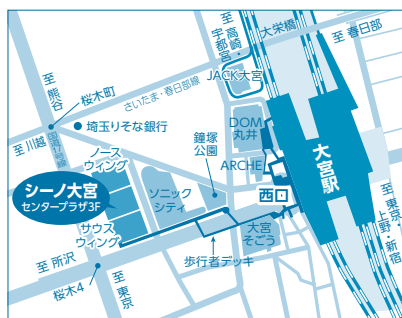
人生100年時代と言われるようになり、「長生きする人が珍しいことではなくなりまして。さいたま市においても100歳を超えている人が540人以上もいるそうです。そつした中で「長生き」するのであれば、健康で、楽しく生きていきたいと思う人は多いのではないのでしょうか。しかしながら、年齢を重ねていくにつれ、病気になるったり、体力が衰えたりする可能性は増えてしまいます。心身ともに健康な状態で「長生き」することは普段からの心掛け次第ではないかと思えます。

健康寿命を延ばす秘訣は「生活習慣」にあると言われていて、「適度な運動」、「規則正しい食生活」、「良質な睡眠の確保」、「趣味を楽しむ」、「ストレスを溜めないで心にユーモアを」、「人とながら」等を実行することが大切だと思います。私は運動不足解消のためにとさいたま市内を散歩したり(浦和区文化の小径マップを活用、日本一の桜回廊や万葉の並木道といった見沼代用水沿いの豊かな自然、中山道浦和宿、大宮盆栽村&氷川神社周辺) 自転車で荒川総合運動公園方面にサイクリングしたり、いきいき100歳体操をしたりして、適度に人とながら、ストレスを溜めないようにしています。

ところが、新型コロナウイルス感染症のCOVID-19によるパンデミック(世界的大流行)で世界は未曾有の危機に直面してしまいました。人の動きが止まり、世界各国で経済、社会状況も激変しました。不要不急の外出を控えなくてはならない昨今は、本当につらい。しかも、ウィルスというのは小さすぎて、「そこに」あるのに見えない」ということが本当に恐ろしい。従来の社会システムや働き方、生活スタイル等に変化の兆しもみられるようになりました。テレワークによる在宅勤務も加速化傾向にあります。感染症が拡大しはじめて以降3密(密閉、密集、密接)という言葉が定着しています。感染症の拡大により人々の間でストレスが生じ、健康面に何ら問題がなかった人でも不調を抱えるようになってきています。

100歳の先を夢見る時代に今、私達は生きています。寒い冬が終わりを告げ、やがてきれいな桜が見沼代用水西縁に咲き始めると春です。肩の力を抜いて心の健康を保ちつつ、健康で「長生き」するために一日一日を大切にしつつ、新しいスタートを切るための準備を始めてはいかがでしょうか。

(新藤 賢十郎)



JR大宮駅西口 徒歩8分

自転車でお越しの場合、シーノ大宮駐輪場が無料でご利用になれます。



さいたま市

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。

郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたまへお願いします。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.45 2021年3月1日

(編集・発行)

さいたま市男女共同参画推進センター(愛称:パートナーシップさいたま)

編集員/酒井彩月、新藤賢十郎、武田礼子、むらかみたくじ

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センタープラザ3階

電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801

E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

◆ホームページもご覧ください◆

パートナーシップさいたま

検索

10・3月発行(年2回)

この広報誌は42,000部作成し、1部当たりの印刷経費は10円です。

